

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501131		
法人名	医療法人社団 上田病院		
事業所名	グループホームゆうゆう 花ユニット		
所在地	室蘭市日の出町2丁目2番27号		
自己評価作成日	平成24年9月26日	評価結果市町村受理日	平成24年11月13日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosi/p7/informationPublic.do?JCD=0173501131&amp;S-CD=320&amp;PCD=01">http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosi/p7/informationPublic.do?JCD=0173501131&amp;S-CD=320&amp;PCD=01</a>
-------------	---

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が3ユニットを自由に行き来しており、職員も他ユニットの入居者の顔をわかり対応できる  
各ユニットで行われている体操をはじめとして歩く入居者や、歩行運動がてら他のユニットの職員に会いに来る入居者もいる  
とてもオープンでどこにいても安心できる居場所がある

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号
訪問調査日	平成24年10月17日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所母体は医療法人で、利用ニーズに添った介護サービスを室蘭周辺で展開している。敷地内には今年オープンしたグループホームが隣接し、避難訓練を個々に行っている。お互いに火災通報連絡を受けてから訓練に加わるよう、協力体制を構築している。ホームは3ユニットで2ユニットは、建物の上下を使用している。利用者は各ユニットを自由に行き来し、冬場の歩行訓練には最適な造りとなっている。運営推進会議は定期的に行政、消防、包括、町内役員、家族が参加し出てきた意見をサービス向上に活かしている。事前案内と議事録は推進委員全員と全家族へ配布している。地域住民とは避難訓練・救命講習・子供みこし休憩場等として駐車場を開放し、日常的な関わりを深めている。通信は報告・予定・お知らせ・連絡を記載し個人宛身体状況・介護状況(食事・入浴・排泄・睡眠)・日常生活など、月次報告書を担当職員により毎月通信と共にホームの暮らしの様子を伝えている。ケアプランの大切さ必要性を管理者と職員が理解し、毎日プランに添ったモニタリングを介護口誌内に記載している。法人病院大浴槽の入浴は利用者の楽しみのひとつで、日常生活の活気のひとつとなっている。今後も期待したいホームである。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口に掲示している	開設当初、職員と話し合いを行い理念を作成した。地域密着型サービスの意義を踏まえ途中より見直し実践につなげている。	基本的な考え方、サービスのあり方を端的に示す理念について、十年目を期に、初心に立ち返り、施設長・管理者・職員で話し合う事に期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	バーベキュー等ゆうゆうの行事に参加 町内会のお祭り子ども御輿立ち寄り等、町会の行事に参加	町内会に加入し、お祭り・盆踊りに参加。子供みこし休憩場として駐車場を開放している。歌・踊り・実習生等、ボランティアを受け入れ日頃より地域との関わりを深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ町会の方々が参加してもらうことにより周知している		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の議事録は回覧し、スタッフが共有している そこで出された意見は各ユニットに伝達され、課題としている	行政、消防、地域包括、町内役員、家族参加により定期的開催。事業所報告、情報提供、意見などの議事録を行政・参加者・全家族に配布し、サービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の会議、講習等に参加し交流している	運営推進会議の参加、事業所状況報告など日頃より連絡を取り、市町村主催会議・研修会に参加し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠していない 身体拘束に関する研修会に参加している	身体拘束研修会に参加し、マニュアルの綴りも整備されている。日中の施錠、言葉の抑制などを含め、全職員で身体拘束の弊害を理解し、ケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットで事例を意見交換し、学ぶ機会をもっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝の申し送りの時間等に学ぶ機会がある		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明には十分時間をかけている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事などに家族も参加し、意見、要望を伝えやすい環境にあり、それらは共有されている	訪問時や運営推進会議などで意見・要望を聴き取る努力を行い、さらに玄関に意見箱を設置し、それらの意見・要望を運営に反映させている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は管理者や施設長に伝えている ユニット会議に反映させている	施設長、管理者は普段より意見・提案・相談を聞き、さらに会議、勉強会で聞く機会を設け、それらの意見・提案を運営、ケアに反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種研修への参加 個別の面談 昇給など		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた職員研修の実施 事例発表会の実施		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連絡会の勉強会や交流会で情報交換		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から詳しく話を聞き、スタッフ間で共有し本人が安心して暮らしていけるよう配慮している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コミュニケーションをとっていき、話しやすい関係作りをしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	こまかなアセスメントとスタッフ間の情報共有で必要な支援の見極めに努めている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは個人を尊重している できることをしてもらいながら共同生活の一員として共に暮らしていく		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを大切にしながら情報を共有していき共に本人をささえていく		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出等自由に行なっている グループホーム入居後にも、毎日夫が面会に来ている入居者がいる	以前通っていた美容室・墓参りなどの外出や、家族・友人達の訪問等、馴染みの関係が途切れる事なく継続できる支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングテーブルの座席等で配慮 話しやすい、安心した居場所を確保できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への転居による退去の場合、受け入れ先と十分に連携し情報を提供している		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉、行動、表情より一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている	普段の何気ない会話より、一人ひとりの思い、暮らしの希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、家族の情報を得て本人本位に検討を行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話しを聞き、経過等の把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りやユニット会議等で一人ひとりの現状について話し合い、ユニット内で共有している		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、ユニット会議等を活用し、ユニット内の意見等を介護計画に反映し作成している	本人からは日常生活会話より、家族からは訪問時に話しを聴き、申し送り、ユニット会議で意見、要望、気づきを職員で話し合い、一人ひとりに見合った介護計画を作成している。	個人介護日誌内にケアプランチェック欄があり、毎日プランに沿った対応と評価記載を行っている。職員はケアプランの大切さ、必要性を理解しケアに努めており、今後も大いに期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記載により職員間で情報共有し介護計画の見直し等に活かされている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じて対応している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町会長等が参加している 歌と踊りのボランティアの受入 消防、町会と連携した防災訓練の実施		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し継続して医療を受けられるよう、かかりつけ医と連携している	本人、家族の気持ちを大切に、希望に添った医療が受けられるよう支援を行い、急な受診対応は家族に代わり職員が対応し、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、受診支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を確保している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護添書も提出し、ケアが継続できるようにしている 退院後もスムーズに生活できるよう情報収集を行っている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の覚え書きやグループホームにおける介護に関する指針に沿って対応している 主治医の指示のもと本人、家族の希望に添えるよう配慮している	入居当初終末期に関する覚書の説明を伝え、変化に応じその都度話し合いを行っている。家族の希望に沿えるよう医療機関と連携をとりながら、事業所のできる限りの支援を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のマニュアルに沿って定期的にシミュレーションを実施している		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町会、消防が参加する防災訓練を年2回実施 夜間、日中の想定で行われる	避難訓練は年二回消防、地域住民、利用者、同敷地内事業所職員等の参加のもと、昼夜想定訓練を定期的に行っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語や言葉づかいに注意し入居者一人一人を尊重している	本人の気持ちを大切に自己判断がしやすい言葉かけや対応を心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情、会話、様子等から希望等をくみ取り、自己決定をできるよう支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれのその日の体調や様子等から、本人のペースを大切に支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で整容し、髪をとかしたり化粧をしたり 身だしなみの点検を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、片付け等、今は行うことができる入居者はいない もやしのひげとりなど実施 個々の能力に応じて支援している	利用者の出来る事が限られてきているが、下準備、お盆拭き、食器拭きなど一緒に行い、本人の誕生日は献立を相談しながら希望に添った、楽しむ事のできる食事支援を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握 それぞれの入居者の状況に応じた食事形態で提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行う それぞれの入居者の状況に応じスタッフが介助している		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しユニット内入居者はトイレにて排泄できている オムツも必要がなければ使用しないという考えが統一されている	日頃より排泄パターン、行動の観察を把握し、その人にあった声掛け、誘導を心掛け、トイレでの自立にむけた排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて把握し麦飯、野菜ジュース、バナナ牛乳等提供している		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりその日の状況に応じて声をかけ入浴している 本人の意思は尊重されている	週2～3回、入浴剤を使用し、体調に合わせた支援を行っている。月一回、法人大浴場の入浴は、利用者の楽しみの一つとなっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠のパターンを把握し安眠できるよう支援している その日の状況に応じて休息を支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	指示されている薬をスタッフ間で共有し、確認をしている 症状の出現時には都度報告し指示を受けている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみごとを把握し、日々の生活の中で取り入れている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の入居者の状況に応じて支援している 水族館見学や、ぶどう狩り等行っている	気候、体調を考慮し、一人ひとりの希望に添った散歩・買い物・草刈りなど外気に触れる必要性と、ドライブ・水族館見物・ぶどう狩りなど環境変化を取り入れた外出支援を行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望を尊重している 個々の入居者の状況に応じて対応している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	グループホーム宛に葉書が届く入居者もいる 希望があれば公衆電話の使用を支援		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテーブル、テレビの位置を居心地よく過ごせるよう配置を工夫 写真を飾ったり、七夕飾り、クリスマス等行事の飾りつけの他に、入居者の作品を展示している	ゆったりした造りで、廊下は車椅子同士の交差が可能である。対面キッチンでは利用者の様子を把握しやすく、吹き抜けからの光りは開放感を感じる。壁には写真、利用者がすぐに歌える歌手カード、行事に添った飾りなど、生活、季節を採り入れ穏やかに過ごす共有空間づくりの配慮となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	6人用テーブル(食事用)のほかに4人用テーブルを配置、1人でそのテーブルを使用したり思い思いに使用している		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が思い思いに家具を持ち込んだり、馴染みの物を置いている	居室は八畳の広さで、馴染みの箆笥・椅子・仏壇など、使い慣れた家具や、写真・飾り物に囲まれ、落ち着いた暮らせる配慮となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に応じて階段昇降で脚力をつけていたり、グループホーム内散歩する事で気分転換になる		